

Office for Gender Equality, Yamagata University

NEWS Letter



これからの社会をつくる女性リーダーを育てるために ～山形大学男女共同参画シンポジウム開催(平成25年11月15日)～



結城学長挨拶

女性リーダーの育成に焦点を当て、男女共同参画シンポジウムが開催され、68人(男性21人、女性47人)の参加がありました。初めに結城章夫学長から、「本日のテーマは、女性教員比率の向上を目指している山形大学にとってだけでなく、わが国が直面している課題です。平成15年に、『2020年までに指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待する』という目標が決定されました。あと7年後には、あらゆる分野で女性の占める割合が30%に達しているようにすることをもっと自覚する必要があります。どのようにして現在の男女格差を解消するのか、先進国の中で低位にある様々な女性比率をどうやって引き上げるのか、皆様と共に考えたいと思います。」という挨拶がありました。



基調講演「女性リーダー育成の意味と教育の役割」

村松泰子氏(東京学芸大学長)

リーダー育成については男女に関係なくお話ししても良いのですが、現実には、2020年までに30%という目標の達成も心許ないことから、敢えて女性を取り上げざるを得ないという状況があります。

私は長くNHKの研究所にいましたが、放送界も女性の進出が非常に遅れておりました。ニュースで何を取り上げ、何を取材するか圧倒的に男性が決め、男性の関心事が優先されました。「誰が、何を、どういう問題意識で取り上げるか」というのは大きな問題です。それが人々の認識を作るからです。そういう意味でメディアと教育は同じ状況にあるといえます。

「なぜ女性のリーダーが少ないのか」といいますと、性別役割分業のシステムが相当根深く日本社会に浸透しているからです。女性が働き出したのは最近のことだというのは誤解で、日本の女性はずっと働いてきました。夫婦で一緒に農業をやっている、家事は女性が担ってきました。性別役割分業には、仕事と家事の分業だけでなく、上に立つのは男性、支えるのは女性という分業も長くありました。

女性のリーダーが少ないもう一つの理由は、ワーク・ライフ・アンバランスです。個々の女性の問題ではなく、働き方自体を変えていかなければ解決しません。「教育を変えれば社会が変わる」と考えています。「男女平等を教える」と同時に、「男女平等に教える」ことが非常に大事です。女性リーダーを育成するためには、ジェンダーの枠から自由になること、男性並みに振る舞うということではなく、個性を活かすこと、そしてワークライフバランスがとれる働き方に改め、男女共に生活の質を高めていくことです。

なぜ女性のリーダーが少ないのか

- 性別役割分業のシステム
 - 女性はずっと働いてきた(家事+仕事)
 - 上に立つのは男性という価値観・教育
 - 女性は、前に出ない・消極的に
 - 社会がつくってきた(ジェンダー)
- ワーク・ライフ・アンバランス

個人の問題(意識・責任)でなく、社会に起因

III. 「女性」リーダー育成と教育の役割

教育を変えれば社会は変わる
戦後教育で男女平等教育を行ってきたか？
学校教育が男女平等であれば、
社会はもっと男女平等のはずでは？

1. 既存のジェンダーを**変革**する働き
女性の知識・能力・意欲の拡大→挑戦
2. 既存のジェンダーを**再生産**する働き
→ <新しい男女平等教育>が必要

平成25年度の男性育児休業取得者4人に！

平成22年度に初めて男性の育児休業取得者が誕生しましたが、今年度は4人の方が取得しました。平均取得日数は51日間です。

男性も育児休業を取得しやすい職場環境を今後も一層整えていきたいものです。



小白川キャンパス保育所愛称決定

小白川キャンパス保育所の愛称は、26人の応募の中で2人の方から提案のあった「のびのび」に決定いたしました。また、運営委託先は、小白川キャンパス保育所運営委員会による選考の結果、NPO法人やまがた育児サークルランド(野口比呂美代表)に決定しました。現在、園児募集中です。教職員以外の市内在住の方のお子様もお預かりする予定です。



平成25年度小白川キャンパス保育所運営委員会委員

- 委員長: 北野通世理事・副学長
委員: 柴崎 孝理事・副学長
委員: 黒沼 毅 総務部長
委員: 石井 滋
小白川キャンパス事務部長
委員: 本島優子地域教育文化学部講師

パネルディスカッション(山形大学男女共同参画シンポジウム)



貴重な事例紹介と学生を含めた活発な意見交換が以下のように行われました。

●「企業経営と女性の活躍推進」梅田恵氏

(日本アイ・ピー・エム株式会社人事ダイバーシティ&人事広報担当部長)

日本IBMにとって1990年代初頭の経営危機からの復活、2000年代のグローバル化推進の鍵はダイバーシティです。特に女性の活躍推進は世界共通の経営課題であり、優先課題です。女性社員自身が自らのキャリア課題を認識し、解決策を経営に提言していくウーマンズ・カウンセルの活動を中心に、「辞めない女性」「泣かない女性」「覚悟のある女性」を目標に柔軟な働き方の推進と女性リーダーの育成を実現しています。

●「学校教育における女性リーダーの育成」坂本澄子氏(山形大学附属小学校長)

山形県内の教職における女性管理職の割合は極めて低く、1%強という状況です。学校教育における女性リーダーの育成には、有為な人材の登用や意識の啓発が不可欠です。人は職で育つと言われます。職員の適性、資質に基づいた職を与え、適切な評価で意欲を高めるとともに、能力を再認識させ職務に係る意識改革を図ること、ライフステージに配慮しながら機会を与えていくことが肝要です。

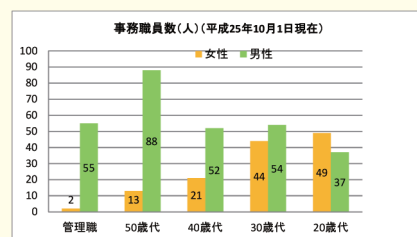
●中野朱理さん(人文学部3年生) 台湾留学を通して、台湾と日本の女性労働者の姿や考え方の違いや類似点について考えました。結婚や出産とキャリアを両立できる多様な労働のあり方とそれを容認する社会が必要です。

●阿部信也さん(地域教育文化学部3年生) カナダで様々な文化的背景を持っている人々と出会い、自分が先入観にとらわれていたことに気づきました。学生が知識や柔軟な考え方を持って変わること、社会を変える新しいリーダーが育つと考えます。

最後にコーディネーターの高木直教授から、「大学や企業、学校のリーダーという立場から事例やご提案をいただきました。また、学生からは、今後の主体的な活動が期待される発言がありました。男女共同参画・ダイバーシティの推進という課題が一層明確になったことから、ご参加の皆さんがそれぞれの場でご活躍いただくと共に、連携を図っていきたい」とのまとめがありました。

山形大学男女共同参画女性職員懇談会の設置に向けて 一事務協議会「職場管理のあり方」検討グループ

本学事務職員の年齢別男女構成は大きく変化してきています。これまでは、男性職員が圧倒的多数を占める中で、女性の管理職は極めて少ない状況が続いてきました。女性職員のキャリアプランや働き方などについて、女性職員が主体的に話し合う場として、標記の懇談会の設置を検討しています。「職場管理のあり方」検討グループでは、広く意見を聴きながら整理を進め、今年度内の設置を目指しています。



平成25年度女性研究者裾野拡大セミナー「目指せ！理系女子！！」

理学部

1回目9月6日(金)93人参加

2回目12月14日(土)89人参加

山形北高等学校・山形西高等学校の生徒を招き、セミナーが開催されました。

1回目「女子高校生のための山大理学部案内」では、5学科の教員による学科紹介と、女性の学部生・大学院生の生の声を聞くという内容で実施されました。

2回目「理学部の研究室を覗いてみよう」では、研究室訪問と実験体験が行われ、研究者や学生との交流の場にもなりました。

参加した生徒から「理学部のイメージが変わった。環境に興味があったので、また関心が強くなった」という感想がありました。



地球環境学科
実験室

工学部

10月13日(日) 29人参加

米沢興譲館高等学校の女子生徒20人と教職員を招き、吾妻祭に合わせてセミナーが開催されました。講師は中島志穂氏(東日本旅客鉄道株式会社)と神山かおる氏(独立行政法人農業食品産業技術総合研究機構食品総合研究所)です。中島氏からは、職場はまだ男性社会だが、女性が活躍できる環境やチャンスが増えてきている、神山氏からは、「おいしさ」研究の面白さと共に、学ぶということに遅いということはない、という話がありました。

講演の後、研究室の見学も行われ、参加者から、「理系女子の社会での活躍について知ることができてよかった。」という感想がありました。



研究室見学

農学部

8月5日(月) 60人参加

山形北高等学校の女子生徒39人、学生14人、教職員7人の参加で、1日コースのセミナーが開催されました。

1.農学部紹介 2.農場見学
3.体験実験「植物ポリフェノールの定量」
4.卒業生に聞く「大学の選択と理系学部での大学生活」森千紗都さん・秋葉未歩さん(安全農産物生産学コース)
5.研究者に聞く「研究者への道ー博士課程進学と目指すべき研究者像ー」西條裕美さん(岩手大学大学院連合農学研究科生物資源学専攻)

参加者から、「農場見学や実験など話では分からない事を経験できてよかった」という感想が寄せられました。



体験実験

「働きやすい職場環境を実現するためのワークライフバランス」

1月9日(木)
人文学部

「10年くらい前に母の介護をした。そばにいてやらないと危ない状態で、夜起きて介護することもあった。仕事ができなくなるので施設に入れたが、もっと良いところに入れてあげれば長生きできたかもしれない」という体験が男性から出されたのを契機に、介護に対する知識や準備不足の不安が出されました。「以前は、子育てや家庭のことなど出しにくい雰囲気があり、人に頼むこともできなかった。今は、このように問題を出し合えるようになり変わってきた」という感想も出されました。個人的な状況が分かれば協力できるので、もっとコミュニケーションが必要だ、という提案が出されました。



20人参加

「ワークライフバランスについて」

8月5日(月)
地域教育文化学部

学長・学部長の挨拶の後、意見交換が行われました。平成23年度から続けているオープンキャンパス時の女性教職員紹介パネル展を、今年は子育てをしている男性教員のパネルも加えてメッセージ付きで行ったということで、スライドを見ながら紹介がありました。アンケートの回答も33件あり、男性教員が子どもと一緒にいる姿に意外さやほほえましさ、とても好評だったということです。「個性的な先生方が多くいらっしゃるようで、とても楽しそうだなと思った」「男性も家庭では育児をしっかりとっていることが分かりました」などの感想が寄せられ、このような情報発信の大切さが話題となりました。



18人参加

学長・学部長と女性研究者との懇談会

10月7日(月)
理学部

「大学院生を含めたフリーディスカッション」

初めに学部長から、理学部では5学科からメンバーが集まりワーキンググループも設立されており、学部としても男女共同参画を重点的に進めています、という挨拶がありました。多数の大学院生の参加があり、自己紹介も含めて率直な意見が出されました。「年齢を考え出産や子育てもしたいが、ドクター取得や就職のことが気になる」「研究者カップルの男性は、男性の就職が先、女性は家にいてもらいたいというところがある」など、男性の意識改革や支援体制についても話が出されました。



30人参加

7月19日(金)
農学部

「フリートークでコミュニケーション」

初めに学長から、「組織が発展していくためには、構成員が仕事と生活を調和させ、結婚や子育て等が両立できることが重要である」という挨拶がありました。

「先輩の女性研究者のロールモデルがないため、仕事とプライベートのバランスについてこれでよいのか悩んでいる。他の女性教員と情報交換を密に行い、コミュニケーションをとる必要性を感じている」という発言がありました。出産・育児・介護の際の研究継続支援員のサポートに感謝しているという感想や、ドクターコースの女性学生の相談や悩みを聞く場を設けたいなどの意見も出されました。



14人参加

9月19日(木)
工学部

「フリートークで子育て情報の交換」

工学部企画のランチミーティングが百周年記念会館2階の迎賓室で開催されました。副学部長から、海外生活の経験から米沢には地方都市のよさがあるという話があり、その後意見交換が行われました。お二人目を妊娠中の先生からは、「米沢市内の託児を利用しているがとても助かっている」ということでした。3人のお子さんをもつ男性から、「子育て中は大変だったが、今思うと楽しかった」という話がありました。「育休後、職場に復帰する際に短時間勤務も考えたが、通常の勤務で何とかやってこられた」という話も出され、これから結婚や出産を考えているという若い方からは、先輩の話は参考になると同時に、相談もできそうで心強いという感想が出されました。



11人参加

ランチミーティング

10月1日(火)
小白川キャンパス

「子育て真っ最中の男性・女性を囲んで」

学長・室長を交え、子育て真っ最中の教職員を囲んでのランチミーティングを開催しました。「妻が双子を妊娠していることが分かり、安静が必要のため早く帰宅しようと考えていても、男性である自分からは言い出し難かったという苦い経験があり、二人が無事に生まれてきてくれた時はほっとした」という話が出され、一方、「妻が専業主婦なのでほとんど育児を任せている」という話もありました。男性の場合、妊娠や出産の状況が周りには見えなため、事情を抱えていても言えなかったり、周りは気づかなかったりすることがあり、実は困っている場合があることがわかりました。男女共にワークライフバランスの危機を乗り越えるには、それを開示する勇気と、受け入れる環境の重要性が認識されました。



15人参加

荒木 志伸 先生

基盤教育院・准教授



◎どのような研究をされているのですか。

文字のある時代の考古学を専門にしています。専門は、墨書土器という1300年くらい前の人びとが土器に文字や絵を描いたものです。古代の人びとの願いや祈りに関わるもので、わざと割って捨てられているものや、煤がついて灯りをとむような仏教儀式に関連するものもあります。

こうした文字に関わる研究の延長線上で墓石などの石塔を調査することになり、それが立石寺(山寺)の研究につながりました。有名な霊場ながら、これまでは小規模な調査のみで、その全容に迫る本格的な研究はほとんどありませんでした。

◎プロフィールを教えてください。

小学校4年生の時に、偶然、発掘現場を目撃したのが考古学に興味を持ったきっかけです。東北新幹線

の工事で友人の家の立ち退きに伴う発掘現場を見て決意し、小学校の卒業文集に「考古学者になりたい」と書いています。親は心配して「歴史はお金にならないから仕事ではなくせめて趣味でやりなさい。」と言われ、そんなものだろうと漠然と半ば諦めた気持ちでお茶の水女子大学に入学しました。好きなことができるのは学生時代が最後と思い、1年生の時から考古学の発掘現場に通う日々で埋没しました。大学3年生のとき、大学の先生がイタリアのカッツァネロ遺跡の発掘調査に行かれると知り、本来は大学院生でないといけなかったのですが、発掘調査のスキルをアピールして参加しました。イタリアでの1ヵ月に及ぶ共同生活では、日中は灼熱の環境のもと現場で調査し、夜はワインを飲みながら様々な専門分野の人たちの熱い談義という洗礼を受け、初めて研究をしたいと強く思うようになりました。その後、奨学金制度の充実した國學院大學大学院に進学し博士号を取得しました。

◎これから研究者を目指す人や学生へのアドバイスをお願いします。

私も先輩研究者から「35歳までは若気の至りで

通じる、経験は何よりの教師だ」と言われました(あつという間に、その年齢は過ぎましたが)。また、敏感な感性をもつ20歳の時と、30代、40代とでは同じものを見たり同じ場所に行っても感動が全く違うとも。失敗できるうち!と開き直す勇気を持って、沢山の経験を積んで下さい。

偉そうなことを言っている割に、私自身が今だに迷いや失敗ばかりで、いつも自信をなくして自己嫌悪に陥ってばかりです。社会人になってからの方が、そうなることが多いです。明るく強い性格と言われますが、外への出し方が上手にできないだけで実際はそうではありません。でも、40歳を過ぎた最近、やっと親に本音や愚痴を話せるようになったかな。勝手に自分が少し進歩したと思っています。研究の成果は、出るまでは結構長く、立石寺の研究も調査に入って10年たって、やっと少しだけ成果が言えるようになってきました。それもたくさんの方々にお世話になった上で、です。その御恩返しを、これからは研究でしていきたいです。

2012年度ベストティーチャー新人賞おめでとうございます。

荒木先生は2011年10月の着任以来、講義・演習や山寺でのフィールドワークを通して、学生に石造文化財から様々なことを読み解く面白さを伝えてこられ、2012年度ベストティーチャー新人賞を受賞されました。今後のご活躍も期待されます。

「理系ライフをのぞいてみよう!サイエンスカフェin山形大学」が開催されました。

1月25日(土)に、「サイエンスカフェ in 山形大学」が開催されました。中学生を中心に43人の参加がありました。サイエンスコミュニケーターの蓼田裕美さんの進行で、資生堂女性研究者サイエンスグラント受賞者の研究を含む最先端の研究が分かりやすく楽しく伝えられました。

- ◎「おいしい米粉パンが世界を救う!」堀淳恵さん(山形大学農学部3年生)
- ◎「気軽に使える燃料電池!」松井淳さん(山形大学理学部准教授)
- ◎「歯を再生させる電磁コイルとは?」帯刀陽子さん(東京農工大学工学部講師)
- ◎「化粧品作りは科学の総合芸術!」蓼田裕美さん(資生堂リサーチセンター)



Information

小白川キャンパス保育所の施設見学受付

- ◎日時: 2月17日(月)以降の平日 10:00~18:00
 - ◎場所: 小白川キャンパス保育所のびのび(瑞樹荘内)
 - ◎申込み方法: 電話で男女共同参画推進室へ(023-628-4937/4938/4939)
- 詳細はホームページをご覧ください。

2月17日(月)~
要予約

保育室



整備中の屋外園庭

Information

小白川キャンパス保育所のびのび開所式・入所説明会

- ◎日時: 3月4日(火) 13:30~
- ◎開所式: 13:30~(事務局棟第1会議室)
- ◎テープカット: 14:00頃(小白川キャンパス保育所のびのび)
- ◎入所説明会: 12:30~13:00

3月4日(火)
参加自由

編集後記/新年度に向けて各種の支援制度の見直しを行っています。託児サポーター制度は学童の一時預かりとして継続する予定です。これまで女性限定だった支援制度も、育児や介護などを抱えた男性も利用できるように検討しているところです。(2014年2月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937/4938/4939
E-mail y-danjo@im.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/